Japan Bowling Congress

JBCnews

since1970

【毎月１回１日発行・１部20円】

JBCニュース
第550号 平成２９年９月１日
昭和50年５月19日第三種郵便物認可

発行所
公益財団法人 全日本ボウリング協会
東京都港区芝４－４－10
サンライズ長井ビル8F 03(3452)4501
http://www.jbc-bowling.or.jp/

福岡の夏は熱い

index

2～3面 U22 3rd Fukuoka Summer Cup 2017 Sponsored by STORM
4面 第41回全日本中学選手権大会
5面 第41回全日本高校選手権大会
6～7面 第8回全日本小学生競技大会
8面 INFORMATION、TOP BOWLER

海外に挑戦するのはハードルが高いもの。10代20代ならなおさらのことです。だからこそ、名誉と経験値、賞金にプレゼントまで得られるこの大会には熱視線が集まります。ハングリー精神を刺激された若い選手たちが、福岡の夏を熱く盛り上げました。

ＪＢＣニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています スポーツくじ toto BIG

3代目王者はM・J・カン 韓国

U22 3rd Fukuoka Summer Cup 2017 Sponsored by STORMが8月11日(金)から13日(日)にかけて、福岡・博多スターレーン（公競No.140-016）で開催された。アジアの次代を担うスター選手を発掘するのが目的のこの大会。3回目を迎えた今年は9の国と地域から、ユース世代のボウラー303名が集結し、M・J・カン（大韓民国）が優勝の栄冠を獲得した。

トロフィーを掲げるカン（中央）と準優勝の中野（左）、第3位の石本（右）

オープニングセレモニー

8月11日(金)11時30分から執り行われたオープニングセレモニーには、国内外の大会役員・関係者が列席した。はじめに大会を主催する育英財団・U22代表のマービン・フー氏と、吉岡英隆協会副会長があいさつした。特別協賛のストーム社副社長、ロバート・ドン氏より祝辞を頂戴し、会場を提供いただいた(株)イースタンスポーツの中野明代表取締役社長より歓迎のことばをいただいた。

選手宣誓役は福岡所属の坂井百望選手と末澤祥平選手が務め、和やかなセレモニーに終始した。

イースタンスポーツ中野社長

ストーム社ドン副社長

吉岡協会副会長

U22フー代表

坂井・末澤両選手が宣誓

ストライクチャレンジ

ストーム社とハイ・スポーツ社より豪華賞品がプレゼントされるストライクチャレンジは8月11日(金)に実施。大会出場全選手が勝ち残り制の一投勝負に挑み、男子、女子の優勝が決まるまで勝負を繰り返した。勝ち上がった16名にはボール、ボールバッグなどの賞品が贈呈された。

勝利者には豪華プレゼントが

チャリティーゲーム収益をIBSA世界選手権へ贈呈

選手を除く大会関係者や選手家族から参加者を募り、インターナショナルチャリティーゲームを実施。一人1500円以上の参加費を受け2ゲームをプレーしていただき、その収益がIBSAテンピンボウリング世界選手権大会（視覚障害者の世界大会、8月に福岡で開催）に寄付された。総勢57名の参加により21万355円が集まり、大会閉会式上でチャリティ贈呈のセレモニーが行われた。

フー氏よりチャリティ金を贈呈

ジュニアトーナメント

大石拓実

今大会には17歳以下の選手を対象とした「ジュニアトーナメント」が設けられた。準決勝の敗退者上位８名による１ゲームマッチのトーナメント戦。メインの決勝トーナメントでも高校生や中学生の躍進は目立ったが、若い世代にチャンスを与えるためのイベントとして実施された。

メイントーナメントさながらのビッグゲームラッシュ。特に優勝決定戦は276-259の好勝負の末、大石拓実（静岡）が優勝を決めた。

ジュニアトーナメント入賞者

ガールズアワード

メイントーナメントの最終順位により、女子選手の上位者を「ガールズアワード」として表彰した。決勝16名中４名が女子で、ベスト４も男女２名ずつという結果となった今大会。スコア（決勝進出ボーダーのアベレージ227）から見ても女子選手の健闘が光っていた。優勝は総合３位の石本美来、準優勝は同４位の石本恵梨奈で、第３位には淺田杏菜が入った。

ガールズアワード入賞者

JBC公認第3種審判員養成講習会

青森で特別開催します

JBC公認第3種審判員養成講習会を9月に青森で開催します。現在参加申込を受け付けています。今年度の定時開催（東西2会場）はすでに終了していますので、取得を希望される方はこの機会にご参加ください。また日体協公認ボウリング指導者資格をお持ちの方は、資格更新のための義務研修として受講できます。聴講参加も受け付けます。

【実施概要】
期日　9月23日（土・祝）～24日(日)
会場　三沢ボウル（青森県三沢市）
受講料　6480円（日体協公認スポーツ指導者義務研修は3240円、聴講者は5400円）
申込締切　9月12日(火)

第3種審判員合格者（東日本地区）

7月8日・9日に開催されたJBC公認第3種審判員認定会（東日本地区）の結果、53名が合格しました。

▽北海道　榊原英起、榊原弓佳
▽宮城県　鷲尾登、高橋政宏、村上邦弘、遠藤儀博、助友信行、菅野知哉、深川宙運、深川恵美子
▽栃木県　廣瀬友紀子、関口謙、大久保健治、藤沼史暁、伊藤了、牧元裕紀
▽群馬県　石川裕大、生方佐緒理、佐藤貴啓、中村敬一、高橋秀明、金井正夫、飯塚まゆみ、岩崎忠史
▽埼玉県　東出泰子、東出進、木阪尚
▽千葉県　谷川有司
▽東京都　針谷洋子、村上明男、針谷明日香、石田千穂、石田隆、山田恵司
▽神奈川県　髙橋大助、初海冶、吉川ちなつ、水野浩二、水野みどり、中尾善光、
▽山梨県　長谷川達郎
▽長野県　川口利枝、山岸光、北島大嗣
▽静岡県　原昌弘、山澤肇
▽愛知県　小島真
▽山口県　乙部亮一
▽学生連合　井上宗哉、小池克彦、佐古健太郎、竹内義貴、武智悠樹

賛助会員、特別法人・個人会員紹介

〈平成29年8月1日以降登録者〉

【特別法人会員】
▽石川県　ジャンボボール（支配人飯田宏治）、都崎商事株式会社（代表取締役前田知一）、髙田産業株式会社（代表取締役髙田直人）
▽島根県　株式会社松江センターボウル（代表取締役今岡余一良）、しんじ湖ボウル（支配人恩田充）、株式会社出雲会館（代表取締役今岡余一良）

【特別個人会員】
▽茨城県　久保正幸（連盟理事長）、横山信一（同副理事長）、椎名豊史（同副理事長兼事務局長）、永島守、谷津尚行
▽群馬県　石田正人
▽石川県　北川善昭、榎本隆明（連盟理事長）、竹田與市（同副理事長）、広岡唯夫(同)、谷口一雄、渡辺正広、永山順一、米沢敏雄、石谷すず子、横川健、竹田源作
▽愛知県　熊谷知久、菅啓司、石川敏雄、則武皓爾、酒井孝司
▽和歌山県　西田一善（連盟会長）、鎌田幸義（同理事長）、山口厚司、金谷佳哉、山本満
▽島根県　吉岡伸義（連盟理事長）、原進、宮倉祐子、林田尚恵
▽岡山県　小見山知一（連盟副理事長）、藤原治美、池田實、小林由紀子
▽山口県　谷川道明（連盟副理事長）、江藤学、堀本純夫、田村一
▽大分県　田代弥栄子
▽鹿児島県　田中敬三（連盟理事長）、坂口喜善（同副理事長）、本田征男、福本さゆみ、園田栄作、丸田小百合

〈順不同・敬称略〉

イベントカレンダー 9月&10月

▽9月1日(金)～3日(日)　日体協公認コーチ養成事業専門科目（JBC・USBCブロンズコーチ認定会）前期　東京・貸教室・貸会議室内海
▽9月9日(土)　ボウリング教室（キャラバン隊）　栃木・足利スターレーン
▽9月10日(日)　ボウリング教室（キャラバン隊）　千葉・ユーカリ・ボウル
▽9月15日(金)～18日（月・祝）　日本スポーツマスターズ2017兵庫大会　兵庫・神戸六甲ボウル
▽9月23日（土・祝）～24日(日)　平成29年度JBC公認第3種審判員認定会　青森・三沢ボウル
▽9月29日(金)～10月5日(木)　第72回国民体育大会（愛顔つなぐ愛媛国体）　愛媛・キスケボウル
▽10月7日(土)　ボウリング教室（キャラバン隊）　山形・山形ファミリーボウル
▽10月8日(日)　ボウリング教室（キャラバン隊）　福島・ボウルアピア郡山
▽10月13日(金)～15日(日)　日体協公認コーチ養成事業専門科目（JBC・USBCブロンズコーチ認定会）後期　東京・シチズンボウル
▽10月20日(金)～22日(日)　第8回東日本シニア競技大会　石川・ジャンボボール
▽10月20日(金)～22日(日)　第8回西日本シニア競技大会　香川・太洋ボウル
▽10月21日(日)～28日(土)　第19回アジアユース選手権大会　フィリピン・マニラ

平成29年度 各連盟公認競技会・リーグ登録数

平成29年8月31日 現在

地区名	連盟	競技会 公認件数	競技会 開催実数	リーグ 公認件数
北海道地区	北海道	29	43	4
東北地区	青森	33		
	岩手	22	24	
	宮城	29	54	
	秋田	17	14	
	山形	17	29	2
	福島	19		
関東地区	茨城	18		
	栃木	11	18	
	群馬	16	35	5
	埼玉	38	65	
	千葉	24	35	12
	東京	1		
	神奈川	29	19	16
	山梨	17	13	
北信越地区	新潟			
	長野	11	17	1
	富山	22	46	1
	石川	18	22	12
	福井	9	1	
東海地区	静岡	26	60	7
	愛知	58	85	2
	三重	32	54	
	岐阜	26	27	
関西地区	滋賀	37	78	
	京都	55	50	14
	大阪	38	7	7
	兵庫	26		13
	奈良	12	8	
	和歌山	14	7	
中国地区	鳥取	9	10	
	島根	5	6	1
	岡山	51	58	1
	広島	15	8	2
	山口	13	11	12
四国地区	香川	12	16	
	徳島	9	20	1
	愛媛	9		2
	高知	1	4	
九州・沖縄地区	福岡	28	45	37
	佐賀	6	3	6
	長崎	13	11	21
	熊本	12	19	37
	大分	16		11
	宮崎	21	37	9
	鹿児島	23	36	
	沖縄	17	20	15
全日本学生連合		12		3
総計		976	1,115	254

メイントーナメント

優勝 Kang Myung Jin（大韓民国）

準優勝 中野勝仁（福岡）

第3位 石本美来（学生連合）

予選前半、地元福岡の関谷伸太郎が4ゲーム989の好スコアでトップに立った。2ゲーム目にH/C込みで306をマークした淺田杏菜（広島）も同点で並ぶ。3位の大久保雄矢（奈良）も2ゲーム目にパーフェクトを達成して2ピン差につけた。

トップと62ピン差で17位につけていた石本恵梨奈（大阪）は中学2年生。後半は2度の269を含む1019をたたき出して一気に首位まで上り詰めた。2位にはJ・Y・ベク（大韓民国）が浮上したが、石本とは38ピン差。大久保も1900台に乗せて3位に留まった。

準決勝には上位56名が進出。石本は2ゲーム目に301を打ち、この4ゲームも976とした。しかしベクも1020と大台に乗せて、決勝へトップ通過を決めた。石本は2位、大久保も986として3位を守った。前回覇者の中野勝仁（福岡）も4位につけて、決勝進出の上位16名が決定した。

ここからはマッチゲームのトーナメント戦。予選・準決勝のスコアは持ち込まれない。レーンを素早く読む力と、相手に打ち負けないための強さが試される。

1回戦と2回戦は1対1での1ゲームマッチ。トップ通過のベクを、ボーダーで進出した原口優馬（長崎）が破って金星を挙げた。名実ともに日本のエースとなった石本美来（学連）は264で快勝した。原口VS石本の2回戦は大接戦。ナショナルチームの先輩でもある石本が1ピン差で薄氷の勝利となった。

淺田はNHK杯覇者の斎藤祐太（神奈川）を1回戦で撃破。H・W・カク（大韓民国）と247-236の好勝負を演じて勝ち上がった中野は、2回戦でも258とし淺田の快進撃を制した。

大久保は1回戦で290と絶好調も、266で勝ち上がったM・J・カン（大韓民国）との2回戦に236-234で敗れる波乱の展開となった。

予選でトップを経験している関谷と石本恵梨奈が1回戦で激突。石本が258で快勝すると、2回戦も長澤椋（岐阜）を抑えて3回戦へと駒を進めた。

3回戦は4名によるシュートアウトマッチ。ロースコアの1名だけが敗退となる。ここで2人の「石本」が明暗を分けた。石本美来は244で一番乗りを決めた。中野が226、カンが225をマークして、205の石本恵梨奈はベスト4で敗退となった。

3つ巴の4回戦はカンが279とし独り勝ち。中野は244、石本は242で、もう1枠は中野の手に渡った。

連覇のチャンスをつかんだ中野だったが、優勝決定戦はいきなりオープンフレーム。すぐさまターキーを取り返したが再びのミスでスコアが伸びない。ターキーでスタートしスペアも確実なカンに遅れをとってしまった。後半もカンはストライクを連発して、256で堂々の勝利をおさめた。

大会第3回にして海外勢が初めて頂点に立ったことは、国際大会としての前進にもなった。大学4年生の中野は今回が最後の出場。初回は3位、前回が優勝で今回準優勝と、地元福岡での大会を盛り上げることに貢献した。

（選手左から）石本恵梨奈、大久保、淺田、長澤、原口

ガイド

アジア圏のユースボウラー育成が目的の大会。男女混合の個人戦（女子および中学生にハンディキャップあり）を行う。予選は4ゲーム×2回戦の計8ゲームを投球し、上位56名が準決勝に進出。さらに4ゲームを行い、12ゲームのトータルスコアで決勝進出者16名を決定した。

決勝トーナメントはすべて1ゲームマッチを行う。1・2回戦は1対1の対戦で、3・4回戦は、最低スコアの1名が敗退となるエリミネーター方式。優勝決定戦は2名による直接対決で優勝者を決定する。

若手選手の競技生活を支援するため、決勝進出の16名には育英金としての賞金を贈呈。メインスポンサーのストーム社からは国際大会出場やボウリング用品などサポートメニューがトップ3の選手に提供された。

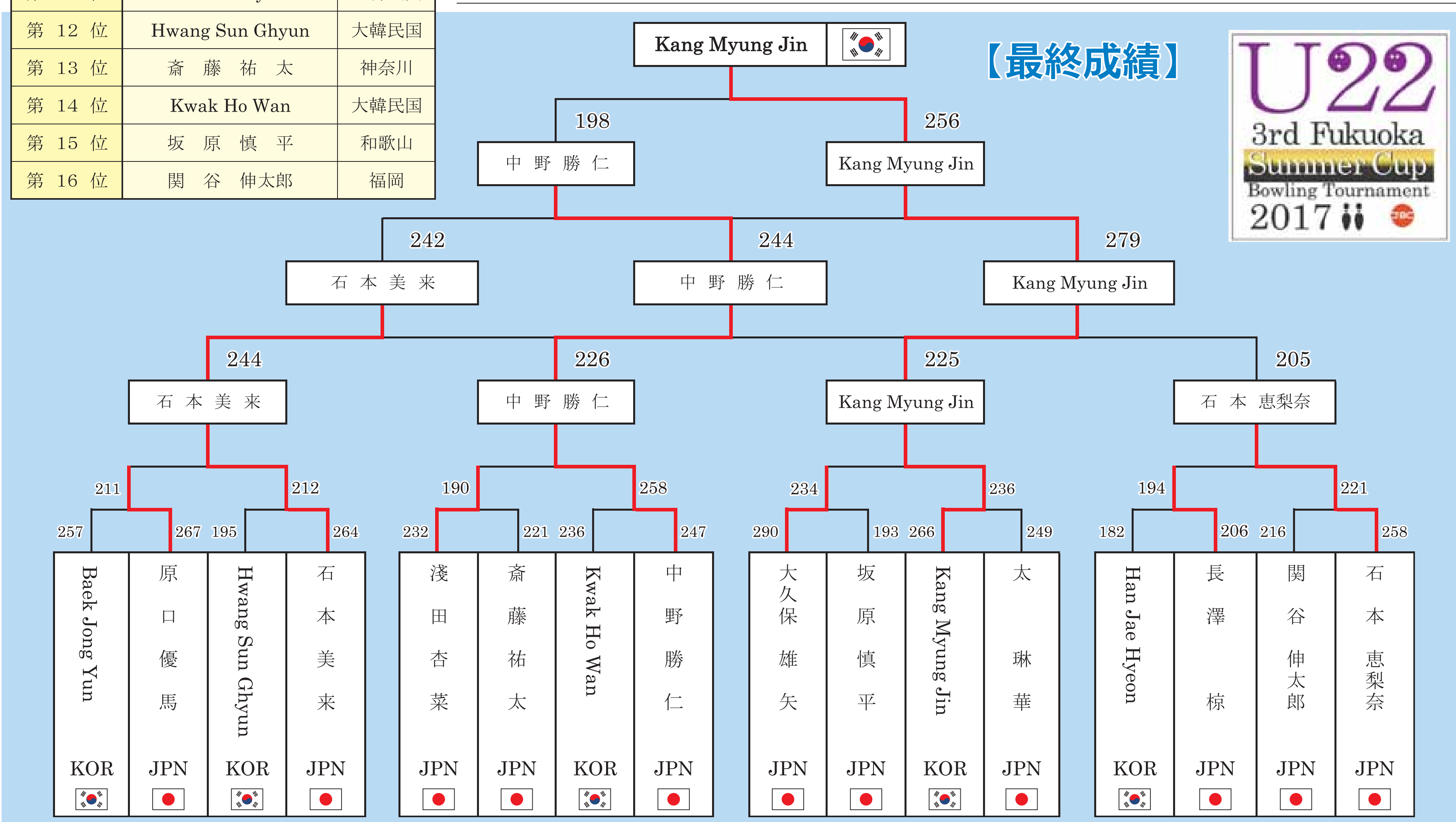
▽育英金　優勝33万円、準優勝17万円、第3位12万円、第4位9万円、第5～8位3万5000円、第9～16位1万2000円
▽主な副賞　優勝…アメリカでの大会出場サポート「Visit USA」を受けられる。準優勝…フィリピンでの大会出場サポート「Visit Euro Med」を受けられる。第3位…ストームローカルスタッフ（日本…ハイ・スポーツ社がサポート）

【大会参加国・地域】
中国、グァム、中国香港、大韓民国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、日本（順不同）

主催　（公財）全日本ボウリング協会（JBC）、U22
特別協賛　ストーム社、(株)ハイ・スポーツ社
後援　（公財）日本体育協会、福岡県教育委員会、（公財）福岡県体育協会、(株)西日本新聞社
協力　（公社）日本ボウリング場協会、日本ボウリング商工会、九州ボウリング連合会、(株)イースタンスポーツ
公認　アジアボウリング連盟、JBC
主管運営　福岡サマーカップ大会実行委員会、福岡県ボウリング連盟

優勝	Kang Myung Jin	大韓民国
準優勝	中野勝仁	福岡
第3位	石本美来	学生連合
第4位	石本恵梨奈	大阪
第5位	大久保雄矢	奈良
第6位	淺田杏菜	広島
第7位	長澤椋	岐阜
第8位	原口優馬	長崎
第9位	Baek Jong Yun	大韓民国
第10位	太琳華	沖縄
第11位	Han Jae Hyeon	大韓民国
第12位	Hwang Sun Ghyun	大韓民国
第13位	斎藤祐太	神奈川
第14位	Kwak Ho Wan	大韓民国
第15位	坂原慎平	和歌山
第16位	関谷伸太郎	福岡

【最終成績】



優勝は 高平雄生＆岩元美咲希

文部科学大臣杯 第41回全日本中学選手権大会

文部科学大臣杯第41回全日本中学選手権大会が7月24日(月)から26日(水)にかけて、京都・キョーイチボウル宇治（公競No.126-063）で開催され、男子は高平雄生（富山・飛騨市立神岡中学校）が、女子は岩元美咲希（愛知・名古屋市立扇台中学校）が、ともに3年生での初優勝を果たした。

11年ぶりに12ゲームトータルピン勝負が復活した今大会。男女ともにかつての大会記録を大きく上回り、中学生ボウラーの進化が証明された。

開会式

吉岡協会副会長

大会初日の7月24日(月)、15時から開会式が挙行された。

京都府山城広域振興局岡本局長

はじめに文部科学大臣杯の返還セレモニーが行われ、開会の準備が整った。

吉岡英隆協会副会長が主催者を代表して挨拶。京都府の山田啓二知事より寄せられた祝辞を京都府山城広域振興局の岡本圭司局長に代読いただき、宇治市の山本正市長より激励のことばをいただいた。

京都府連盟 田坂会長

宇治市山本市長

大会を主管する（一社）京都府ボウリング連盟の田坂幾太会長にも歓迎のあいさつをいただき、競技規程説明・認証報告に審判団の紹介と式典を進行。締めに京都市立太秦中学校・大藪信太郎選手が選手宣誓を行い、開会式を滞りなく終了した。

宣誓する大藪選手

競技

女子の部

1回戦は257・245とビッグゲームを連発した水谷秋穂（愛知）がトップに。岩元美咲希（愛知）は3ゲーム目に290をマークして2位。この2人が700UPで頭ひとつ抜け出すかたちとなったが、2回戦では岩元がさらに725と打ち上げて、水谷に112ピン差をつけた。

3回戦も岩元は709と勢いは止まらない。トータルスコアを2137まで伸ばして余裕のトップ通過。そしてリードを214ピンまで広げた。

昨年までの競技方法なら予選のスコアはリセットされたが、今年は12ゲームの総得点で順位を決定する。ここまで順調にスコアを積み上げてきた岩元だったが、1ゲーム目はまさかのローゲーム。一方水谷は226とし128ピン差まで縮めたが、2ゲーム目は立て直した岩元が224をマークし、追い上げを許さなかった。

最終ゲームを190にまとめた岩元は、トータル2691で優勝。近藤菜帆（愛知）が決勝で684と打ち上げで2位に入り、3位に水谷と続いた。愛知県勢が3年連続で優勝しただけでなく、今年は3位までを独占して層の厚さを改めて示した。

男子の部

3ゲームとも230超にまとめた石川夕真（神奈川）が741でトップに立ち、ビッグゲームを活かして738の高平雄生（富山）が2位で続いた。2回戦も高平は268・255とビッグゲームを連発して725。29位と出遅れた林元輝（愛知）はそれを上回る758をマークして2位に浮上してきたが、高平は95ピンの大量リードで前半戦を折り返した。

3回戦も1ゲーム目に276と、高平の独走が止まらない。このシリーズも726とし、ここまでのアベレージは243に達した。2位林との差は131ピンに広がった。

ここまで絶好調の高平だったが、決勝に入って183・182と大ブレーキ。同じタイミングで3位の坂本就馬（神奈川）と6位の淺川啓太（兵庫）が林とともに追い上げてきた。最終ゲームを前に高平のリードは半減してしまったが、最後は229と持ち直して逃げ切った。

11年前まで、同じ12ゲームトータル勝負だった際の大会記録は2653ピン。対して高平の優勝スコアは2783ピン。アベレージで10ピンも伸びたことになる。そして5位までの選手が以前の記録を上回り、中学生男子の顕著なレベルアップが証明された。

高平雄生	飛騨市立神岡中	
	富山県	15歳
使用ボール	Code Perfect(14p3oz)	
公認ドリラー	曽根多加雄	（公認No. 0762-18 ）

岩元美咲希	名古屋市立扇台中	
	愛知県	15歳
使用ボール	Haywire(15p)	
公認ドリラー	佐渡島悟	（公認No. 0241-22 ）

ガイド

全日本中学選手権は第31回大会（2007年）から文部科学大臣杯の下付を受け、決勝戦の競技方法にシュートアウト・ステップラダーを採用してきたが、今大会は12ゲームトータルピンで優勝を争う方法に改定し実施された。

予選は3ゲーム×3回戦で、男子上位20名、女子上位16名が決勝に進出。さらに3ゲームを行い、順位を決定する。

同じ競技方式でのかつての大会記録は男子が2653、女子は2655で、男女とも今年の優勝者が記録を大きく塗り替えた。

H/G、H/S（左から）岩元、千田、菅野

女子の部

男子の部

文部科学大臣杯 第41回全日本中学ボウリング選手権大会　成績表

2017年7月24日（月）～26日（水）
会場：京都・キョーイチボウル宇治
男子106名　女子77名　計183名

《男　子（12G）》

優勝	高平雄生	（富山）	飛騨市立神岡中学校	3年	2,783
準優勝	坂本就馬	（神奈川）	相模原市立大野台中学校	3年	2,741
第3位	淺川啓大	（兵庫）	尼崎市立塚口中学校	2年	2,739
第4位	林　元輝	（愛知）	一宮市立尾西第一中学校	3年	2,699
第5位	菅野直人	（神奈川）	藤沢市立大庭中学校	3年	2,675
第6位	岡田海人	（埼玉）	川口市立南中学校	3年	2,646
第7位	甘利紘大	（大阪）	東大阪市立若江中学校	3年	2,587
第8位	堤　勇希	（長崎）	佐世保市立祇園中学校	1年	2,561
ﾊｲｹﾞｰﾑ	千田祐太	（岩手）	奥州市立胆沢中学校	3年	289
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	菅野直人	（神奈川）	藤沢市立大庭中学校	3年	767

《女　子（12G）》

優勝	岩元美咲希	（愛知）	名古屋市立扇台中学校	3年	2,691
準優勝	近藤菜帆	（愛知）	豊田市立前林中学校	2年	2,587
第3位	水谷秋穂	（愛知）	あま市立七宝中学校	3年	2,556
第4位	甫立智香	（熊本）	熊本市立楠中学校	3年	2,507
第5位	溝田月輝	（福岡）	飯塚市立幸袋中学校	1年	2,466
第6位	中島望結	（佐賀）	鹿島市立東部中学校	2年	2,428
第7位	立花沙貴	（兵庫）	伊丹市立荒牧中学校	3年	2,386
第8位	木下未久実	（愛媛）	愛媛県立松山西中等教育学校	3年	2,374
ﾊｲｹﾞｰﾑ	岩元美咲希	（愛知）	名古屋市立扇台中学校	3年	290
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	岩元美咲希	（愛知）	名古屋市立扇台中学校	3年	725

チャンピオンはサウスポー

JOCジュニアオリンピックカップ

第41回全日本高校選手権大会

西山 響

戸塚 眞由

JOCジュニアオリンピックカップ第41回全日本高校選手権大会が7月31日(月)から8月2日(水)にかけて、神奈川・川崎グランドボウル（公競No.114-023）で開催された。全国から283名の選手が出場し、高校チャンピオンの座を争う熱戦を展開した。

昨年に続き、男子は両手投げ、女子は愛知県勢から優勝者が誕生。加えて男女ともサウスポーの、西山響（青森・八戸工業大学第一高校3年）と戸塚眞由（愛知・県立木曽川高校1年）が頂点に立った。

競技

男子の部

予選1回戦は700UPが3名。立花和輝（兵庫）は3ゲームとも230を超えて721をマークした。西山響（青森）は704、冨永達郎（東京）は700で2・3位につけた。西山は2回戦も722と打ち上げてトップを奪う。2位に浮上した村瀬大河（岐阜）や3位の東海純（富山）、4位の羽ヶ崎匠海（神奈川）も西山を上回る好シリーズで上位を固めた。

3回戦も267に続いて220台を連発した西山。シリーズ715として決勝へ1位通過を決めた。竹田航（和歌山）が778と打ち上げて西山と23ピン差に迫り、3位の村瀬は7マーク離されるかたちで決勝戦に突入した。

1ゲーム目、225の西山に対し竹田は193で、その差は55ピンまで開いた。竹田は2ゲーム目で会心の288をマーク。12ピン差まで詰め寄って見せた。とはいえこのゲームも245と好調の西山は、最終ゲームも224とし逆転を許さなかった。

左利きで両手投げというユニークさを持つ西山だが、3日間12ゲームを通じてローゲームが211という「完璧」なスコアメイクが何よりの勝因となった。

H/G、H/S（左から）川島、中村、向谷、竹田

女子の部

藤田梨聖（千葉）が279のロケットスタート。シリーズ730で首位に立ち、涌井李音（東京）、野仲美咲（東京）、柿内ナオミ（群馬）と関東勢が上位を占めた。2回戦では向谷優那（千葉）が743をマークしてトップに。2位に留まった藤田に50ピン差を作った。

すると3回戦は順位に大変動が。上位につけていたメンバーがスコアを伸ばせず、669を打った坂井百望（福岡）が1位通過となった。2位の原野萌花（福岡）と3位渡辺莉央（群馬）は2マーク差で、大混戦の中決勝戦を迎えた。

1ゲーム目は原野が256で逆転。5位につけていた戸塚眞由（愛知）も247とし2位に浮上したが、原野とは47ピン差がついた。2ゲーム目も戸塚は211と好調で、トップを走る原野に迫っていった。その差は25ピン。逆転が見えた戸塚はラストスパートで247と打ち上げて優勝をさらった。

優勝を争った戸塚と原野は全日本小学生競技大会でも入賞してきた選手。昨年も今年も、全中と全高の女子チャンピオンは、小学生大会が開かれる愛知県のメンバーが独占した。小学生時代のキャリアはジュニア女子の活躍に大きな影響を与えていると言える。

開会式

開会式は7月31日(月)16時に開始。大会恒例となった神奈川県ボウリング連盟・山本隆義副会長による高らかな開会宣言で幕を開けた。北川薫協会会長からのメッセージを齋藤良太郎協会専務理事が代読し、来賓をご紹介。競技規程説明・認証報告と審判団の紹介に続き、選手宣誓に立ったのは神奈川県代表・県立横浜南陵高校の羽ヶ崎匠海選手。「私たちは、ボウリングを愛しています」と力強く宣言すると、ガッツポーズで締めくくり喝采を浴びた。

羽ヶ崎選手が力強く宣誓

西山　響	八戸工業大学第一高	
	青森県	17歳
使用ボール	True Warrior(15p3oz)	
公認ドリラー	丸達也　（公認No.　B1831-02　）	
戸塚眞由	県立木曽川高	
	愛知県	15歳
使用ボール	Marvel Maxx LE(15p)	
公認ドリラー	吉田文啓　（公認No.　B0556-22　）	

男子の部

女子の部

ガイド

高校生ボウラーが目標とする全国大会は3大会。国民体育大会（少年の部は中学3年も対象）、全国高等学校対抗選手権大会（2人チーム戦）と、この全日本高校選手権大会。JOCジュニアオリンピックをかけた個人戦で、予選9ゲームを経て男子28名、女子20名が決勝に進み、さらに3ゲームを投球して12ゲームのトータルピンで優勝を争う。

この大会はスポーツ振興基金の助成を受けて開催しています。

スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

JOCジュニアオリンピックカップ 第41回全日本高校ボウリング選手権大会　成績表

2017年7月31日(月)～8月2日(水)
会場：神奈川・川崎グランドボウル

男子167名　女子116名　計283名

《男　子（12G）》

優勝	西山　響	（青森）	八戸工業大学第一高等学校	3年	2,835
準優勝	竹田　航	（和歌山）	県立橋本高等学校	2年	2,779
第3位	東海　純	（富山）	県立高岡高等学校	3年	2,733
第4位	村上太一	（静岡）	八洲学園高等学校	1年	2,723
第5位	羽ヶ崎匠海	（神奈川）	県立横浜南陵高等学校	2年	2,701
第6位	村瀬大河	（岐阜）	中京高等学校	1年	2,677
ハイゲーム	中村優也	（青森）	東奥学園高等学校	1年	278
ハイシリーズ	竹田　航	（和歌山）	県立橋本高等学校	2年	778

《女　子（12G）》

優勝	戸塚眞由	（愛知）	県立木曽川高等学校	1年	2,616
準優勝	原野萌花	（福岡）	福岡第一高等学校	1年	2,577
第3位	渡辺莉央	（群馬）	前橋育英高等学校	1年	2,556
第4位	諏訪汐香	（神奈川）	県立大師高等学校	1年	2,549
第5位	向谷優那	（千葉）	船橋市立船橋高等学校	3年	2,523
第6位	泉宗心音	（愛媛）	聖カタリナ学園高等学校	3年	2,522
ハイゲーム	川島　楓	（宮城）	仙台育英学園高等学校	2年	289
ハイシリーズ	向谷優那	（千葉）	船橋市立船橋高等学校	3年	743

小学生ボウラーの本気が激突！

第8回 全日本小学生競技大会

第8回全日本小学生競技大会が8月5日(土)・6日(日)の両日、愛知県稲沢市の稲沢グランドボウル（公競№122・064）で開催されました。男女・学年別のチャンピオンを決める競技大会を中心に、様々なイベントを詰め込んだ2日間、176名の小学生が全国から参加しました。

今年も小学生ボウラーの真剣勝負が展開され、2年連続優勝や大会新記録といった快挙も生まれました。

ウェルカムパーティー

全日学小学生競技大会の開会式は「ウェルカムパーティー」と称し、選手が楽しく交流する場を提供しています。山崎地蔵寺太鼓の勇壮なオープニングアクトでパーティーが始まりました。

大会実行委員会の賀浦敬夫会長が主催者を代表してあいさつし、稲沢市教育委員会の恒川武久教育長より歓迎のあいさつをいただきました。愛知県ボウリング連盟の丹羽芳樹会長は公務のため欠席につき、激励のメッセージを寄せられました。

来賓のご紹介と感謝状贈呈に続いて、地元愛知県代表の松尾将希選手（6年）、酒井愛選手（6年）が元気に選手宣誓を行いました。そして「いただきます！」を合図にお待ちかねのランチタイム。お寿司にサンドイッチ、からあげなどご馳走をほおばりました。最後はボウリング用品セットが当たるビンゴ大会で盛り上がりました。

大会実行委員会賀浦会長

稲沢市教委恒川教育長

宣誓する酒井、松尾両選手

勇壮な太鼓からパーティーがスタート

仲間たちと楽しくランチ

特別指導会

東海地区のプロボウラーとナショナルチームメンバーが先生役を務める特別指導会。大会の参加選手と稲沢市の小学生、200名が参加しました。

先生ボウラー紹介の場面では、かつて小学生大谷秋穂選手や林元輝選手にもマイクが渡されました。全日本ユースナショナルチームのメンバーにも大会OB・OGが増えて、小学生に希望を与える役目も担うようになりました。

体が成長途中の小学生だけに、準備運動やストレッチを念入りに指導した上で、いよいよ投球タイムに突入しました。個々のフォームを見て、基本がずれているかを確認しながら、それぞれの個性を活かせるように丁寧にアドバイスを送りました。

卒業生の水谷選手も今年は先生役

準備運動はしっかりと

世界最速エレベーターに

体験搭乗@三菱電機

実験塔の頂上にて

ボウリング大会の枠に留まらないイベントにしたいという意図のもと、社会見学ミニツアーも実施されました。8月6日(日)、競技の合間を縫って向かった先は、稲沢グランドボウルに隣接する三菱電機㈱稲沢製作所。世界最速エレベーター「SOLAE」に乗ってスピードを体感しました。ショールームの体験展示で学んだり、珍しいらせん構造の「スパイラルエスカレーター」に搭乗したりと、短い時間の中で最先端の技術に触れました。帰りに記念のおみやげもいただき、大満足の小学生たちでした。

らせん状のエスカレーター

第8回 全日本小学生ボウリング競技大会　成績表

平成29年8月5日(土)～6日(日)
会場：愛知・稲沢グランドボウル
参加：176名

《小学6年生男子の部（9G）》　44名

優勝	座波	政斗	（沖縄県）	那覇市立城北小学校	1,964
準優勝	長尾	侑甫	（福岡県）	飯塚市立蓮台寺小学校	1,888
第3位	愛甲	雅治	（宮崎県）	宮崎大学教育学部付属小学校	1,849
第4位	津波古	蓮	（沖縄県）	糸満市立糸満南小学校	1,779
第5位	内山	検太	（静岡県）	浜松市立和地小学校	1,763
第6位	相馬	祥希	（青森県）	弘前市立城西小学校	1,681
第7位	浅尾	親楽	（神奈川県）	横浜市立大綱小学校	1,669
第8位	伊藤	充輝	（福岡県）	北九州市立黒畑小学校	1,643
第9位	石田	康次郎	（青森県）	弘前市立北小学校	1,639
第10位	堤山	航	（三重県）	鈴鹿市立一ノ宮小学校	1,580
ハイゲーム	座波	政斗	（沖縄県）	那覇市立城北小学校	268

《小学5年生男子の部（9G）》　38名

優勝	森下	元喜	（三重県）	津市立豊が丘小学校	1,718
準優勝	大石	怜生	（神奈川県）	藤沢市立石川小学校	1,687
第3位	宮城	快仁	（沖縄県）	那覇市立城北小学校	1,644
第4位	内藤	広人	（静岡県）	浜松市立与進小学校	1,636
第5位	岩垂	琉翠	（長野県）	松本市立梓川小学校	1,620
第6位	安田	知弘	（岐阜県）	安八町立名森小学校	1,607
第7位	星合	一希	（徳島県）	徳島文理小学校	1,562
第8位	高橋	一葵	（茨城県）	ひたちなか市立東石川小学校	1,555
第9位	相澤	空	（静岡県）	富士市立広見小学校	1,501
第10位	山下	大輔	（宮城県）	気仙沼市立九条小学校	1,488
ハイゲーム	宮城	快仁	（沖縄県）	那覇市立城北小学校	240

《小学4年生女子の部（9G）》　31名

優勝	林	優輝	（愛知県）	一宮市立三条小学校	*1,743
準優勝	下地	良尚	（沖縄県）	那覇市立城東小学校	1,690
第3位	久米	一宰	（京都府）	京都市立第四錦林小学校	1,662
第4位	増田	光希	（静岡県）	静岡市立川原小学校	1,570
第5位	奥田	倫平	（山口県）	宇部市立新川小学校	1,499
第6位	藤原	功聖	（愛知県）	一宮市立束広小学校	1,491
第7位	巽	洸一	（大分県）	大分市立横瀬小学校	1,473
第8位	御手洗	彰彦	（愛媛県）	松山市立浮穴小学校	1,469
第9位	折原	慶人	（群馬県）	館林市立第八小学校	1,371
第10位	鈴木	モルテザ	（神奈川県）	平塚市立松原小学校	1,363
ハイゲーム	林	優輝	（愛知県）	一宮市立三条小学校	247

《小学6年生女子の部（9G）》　32名

優勝	石田	万音	（兵庫県）	神戸市立美賀多台小学校	1,794
準優勝	濱崎	りりあ	（神奈川県）	横浜市立三ッ境小学校	1,768
第3位	酒井	愛	（愛知県）	江南市立古知野南小学校	1,733
第4位	近藤	眞桜	（群馬県）	太田市立太田小学校	1,723
第5位	崎山	穂花	（神奈川県）	横浜市立三俣小学校	1,687
第6位	山田	悠加	（愛知県）	名古屋市立鳴海東部小学校	1,679
第7位	川縁	彩乃	（富山県）	高岡市立南条小学校	1,655
第8位	緒方	彩音	（大阪府）	堺市浜寺昭和小学校	1,626
第9位	高橋	梨織奈	（神奈川県）	相模原市立旭小学校	1,584
第10位	高橋	機華	（三重県）	鈴鹿市立椿小学校	1,571
ハイゲーム	崎山	穂花	（神奈川県）	横浜市立三俣小学校	233

《小学5年生女子の部（9G）》　17名

優勝	石田	な	な	（千葉県）	八千代市立村上東小学校	1,698
準優勝	山之内	詩		（愛知県）	一宮市立木曽川西小学校	1,693
第3位	豊村	妃己		（神奈川県）	藤沢市立片瀬小学校	1,637
第4位	友澤	千怜		（愛媛県）	伊予市立郡中小学校	1,583
第5位	砂川	舞佳		（沖縄県）	那覇市立宇栄原小学校	1,478
第6位	坂田	望実		（奈良県）	香芝市立鎌田小学校	1,465
第7位	佐藤	美葉		（北海道）	札幌市立平和通小学校	1,451
第8位	森川	好葉		（三重県）	津市立一身田小学校	1,431
第9位	東	桜沙		（愛知県）	津島市立神島田小学校	1,430
第10位	我孫子	美蕉		（宮城県）	加美町立鳴瀬小学校	1,388
ハイゲーム	山之内	詩		（愛知県）	一宮市立木曽川西小学校	257

《小学4年生女子の部（9G）》　14名

優勝	濱崎	姫琉	（神奈川県）	横浜市立三ッ境小学校	1,522
準優勝	長屋	似奈	（愛知県）	一宮市立神山小学校	1,504
第3位	谷口	美優	（大阪府）	大阪市立北中島小学校	1,476
第4位	上山	乃愛	（神奈川県）	大和市立桜丘小学校	1,450
第5位	畠山	夏輝	（北海道）	札幌市立米里小学校	1,238
第6位	橋本	鈴香	（福井県）	敦賀市立成新小学校	1,205
第7位	吉田	知花	（石川県）	白山市立旭丘小学校	1,191
第8位	江崎	華菜	（愛知県）	北名古屋市立鴨田小学校	1,178
第9位	川野	瑞貴	（群馬県）	高崎市立新高尾小学校	1,176
第10位	石井	こころ	（埼玉県）	ふじみ野市立大井小学校	1,150
ハイゲーム	長屋	似奈	（愛知県）	一宮市立神山小学校	236

*…大会新記録

競技

4年生女子

濱崎姫琉

予選前半、長屋似奈（愛知）と濱崎姫琉（神奈川）が540台をマークして並んだ。後半スコアを伸ばせなかった長屋に対し、濱崎は430にまとめてアベレージ170台をキープ。2位につけた谷口美優（大阪）に5マーク差をつけた。決勝戦では谷口も長屋も500UPで追い上げたが、436とした濱崎がそのまま優勝を決めた。

4年生男子

林優輝（愛知）は全日本ユースメンバー・林元輝（愛知）の弟。予選前半に649の好シリーズをたたき出した。2位の下地良尚（沖縄）に35ピン差をつけると後半も607とし、リードは132ピンにまで開いた。決勝戦の1ゲーム目でそのリードは半減してしまったが、トップを譲らずにゴール。兄弟そろって4年生チャンピオンという快挙を果たした。

林優輝

5年生女子

前半、山之内詩（愛知）が680で抜け出した。2位の坂田望実（奈良）に111ピンのリードをつけると、後半も安定したゲーム運びで101ピン差を残して決勝へ。1ゲーム目で200UPした山之内だったが、2・3ゲーム目でスコアを落としてしまう。3位通過の石田なな（千葉）は2ゲーム目に235と一気に35ピン差まで迫ると、最終ゲームで逆転して優勝を奪った。

石田なな

5年生男子

森下元喜

（沖縄）がトップ。森下元喜（三重）は37ピン差で2位につけた。森下は2回戦で559とし首位に立つと、2位に浮上した内藤広人（静岡）に73ピン差をつけた。決勝では大石怜生（神奈川）が635と打ち上げて森下に迫ったが、31ピンを残して逃げ切り森下の優勝となった。

6年生女子

酒井愛（愛知）と石田万音（兵庫）はともに全ゲーム200UPの好投。641の酒井を石田が62ピンで追った。石田は後半を385にまとめると酒井を逆転。とはいえ4ピン差の接戦が続いた。石田は決勝で211・233とスパートを見せた。5位につけていた濱崎りりあ（神奈川）が657と打ち上げてきたが、26ピン差で振り切り、昨年の5年生の部に続いて2階級制覇を果たした。

座波政斗

石田万音

6年生男子

前半は中川新（愛知）の633を筆頭に、7位まで600UPという混戦模様。座波政斗（沖縄）が後半で260台を連発して747をたたき出し、2位の藤田雅治（宮崎）に97ピン差をつけた。決勝も608にまとめた座波は、アベレージ218の好スコアで優勝を決めた。

4年生女子の部

4年生男子の部

5年生女子の部

5年生男子の部

6年生女子の部

6年生男子の部

ガイド

2015年度に「スポーツ拠点づくり推進事業」の認定を受けるとともに、小学生ボウリングの聖地・稲沢市を根付かせるイベント（JBC、愛知県ボウリング連盟、稲沢市ボウリング協会、稲沢市教育委員会）へと変身したこの大会。従来から実施の特別指導会に加え、社会見学ツアーを盛り込み、開会式をパーティー形式にしたりと、小学生の夏休みにふさわしい充実したプログラムが組まれています。

競技大会では予選前半3ゲーム、後半3ゲームを投げて、トータルピンの上位10名が決勝に進出し、さらに3ゲームを投球して順位を決定。中学生、高校生の大会と並んで、余りと呼ばれるのも定着し、タイトルの格も上がりつつあります。

主催　全日本小学生ボウリング競技大会実行委員会（JBC、愛知県ボウリング連盟、稲沢市ボウリング協会、稲沢市教育委員会）

後援　総務省、スポーツ庁、（一財）地域活性化センター、（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会、愛知県教育委員会、（公財）愛知県体育協会、稲沢市、稲沢市体育協会、㈱中日新聞社

協力　東海ボウリング場協会、愛知県ボウリング公認競技場協議会、東海地区プロボウラーズ選手会、稲沢グランドボウル、三菱電機㈱稲沢製作所

主管　愛知県ボウリング連盟　稲沢市ボウリング協会

この大会は、一般財団法人地域活性化センターの「スポーツ拠点づくり推進事業」の支援を受けて実施しています。

入賞者に豪華副賞

今大会、上位入賞者等にはボウリング用品が副賞として贈呈されました。

▽㈱アメリカンボウリングサービスよりトップボールバッグ（優勝）
▽㈱ハイ・スポーツ社よりスペアボール（準優勝）
▽㈱サンブリッジよりツアーバッグ（第3位）、ぬいぐるみバッグ（ハイゲーム賞）

H／G（左から）長屋、山之内、崎山、林、宮城、座波

TOP BOWLER

vol.116 逆転優勝が自信になった

にしやま・ひびき　17歳　八戸工業大学第一高等学校３年

全国高校対抗選手権優勝歴（2012年）のある同校で、週５日の部活動と休日を含めた自主練をこなす毎日。競技歴わずか３年ながら全日本高校選手権で優勝を果たした。目標の選手はJ.ベルモンテ（オーストラリア／PBA）と語るサウスポーのツーハンダー

高校選手権ではスコアの安定感が際立っていました。「普段はストライクがくるラインを通すことを重点的に練習しています。その結果高校選手権ではラインをほぼミスすることなく通して、多くのストライクを連続して出せたことと、スペアミスが少なかったことが最大の要因だと思います。２回戦終了時点で１位だったことから、もしかしたらいけるかもと意識し始めました。」

今年の出場選手には両手投げがとても多く、西山選手もその一人です。「当初はストローカーでしたが全くスコアが上がらず、遊び半分で両手投げをしてみたら思ったよりスムーズにできたことと、ベルモンテ選手の動画を見て自分のフォームに似ていたことから、真似ることから始め、本格的に取り組みました。」

県内大会も好成績でえひめ国体の代表選手に。大きな自信を得たのでは？「特に緊張することはなく、ここぞという勝負の時にはプレッシャーを感じることなく自信を持って臨むことができます。２年生の時に県新人戦個人決勝戦で１位に100ピン以上の差を逆転して優勝したことが自信につながっています。国体のレーンは難しいと思いますが、中を通す練習もしたり、常に国体を想定した投球に努めたい。まずは入賞を目標に頑張っていきたいです。」

西山響さん（青森県）

INFORMATION 大会・イベント情報

女子チーム戦で銅メダル！

第3回世界シニア選手権大会

日本女子チーム（左から）
柳川、鳥谷部、宮倉、吉田、川井監督

第3回世界シニア選手権大会が8月14日(月)から20日(日)にかけて、ドイツ・ミュンヘンで開催されました。44の国と地域から代表選手が集まった今大会。PBAの名選手を擁するアメリカが、全10種目のうち9つの金メダルを独占して強さを示しました。

日本勢も健闘を見せました。女子チーム戦で大接戦の末に決勝進出。アメリカとの直接対決で敗れたものの銅メダルを獲得しました。世界シニア選手権での日本勢メダル獲得は初の快挙です。

オールエベンツでは吉田由美子（埼玉）が4位、シングルス戦では鳥谷部エイ子（青森）が7位と、上位に食い込みました。

【詳細は次号】

ジュニアジャパン認定会　全国4地区で開催

地域における有望選手を発掘するための「ジュニアジャパン強化選手認定会」が全国4地区で開催され、各都道府県連盟から推薦された中学1年生から高校3年生までのジュニア選手、総勢94名が参加しました。

1泊2日の合宿形式で、投球指導と競技会、トレーニング指導が行われました。競技力向上部会・競技者育成部会の指導者と現役のナショナルチームメンバーが、トップ選手になるための指導にあたりました。

11月にはジュニアジャパン強化認定選手を集めての合宿も行われます。

【日程・会場】

▽北地区　7月28日(金)・29日(土)
福島・ボウルアピア郡山
（公競No.107-016）

▽西地区　8月4日(金)・5日(土)
福岡・博多スターレーン
（公競No.140-016）

▽中地区　8月6日(日)・7日(月)
大阪・イーグルボウル
（公競No.127-001）

▽東地区　8月8日(火)・9日(水)
東京・東大和グランドボウル
（公競No.113-112）

We are Team JAPAN ナショナルチーム通信

JOCオリンピック 有望選手に4名認定

（公財）日本オリンピック委員会が認定する「オリンピック有望選手」に、全日本ユースナショナルチームの4選手が認定されました。

【認定選手】

藤田梨聖（千葉・敬愛学園高校2年）、水谷秋穂（愛知・あま市立七宝中学校3年）、徳久恵大（長崎・九州文化学園高校2年）、原口優馬（長崎・県立長崎鶴洋高校3年）

藤田・徳久・原口の3選手には、JOCオリンピックカップ第41回全日本高校選手権大会の開会式で、水谷選手には文部科学大臣杯第41回全日本中学選手権大会の開会式で、認定証の伝達授与が行われました。

（左から）藤田、原口、徳久、水谷

7月号プレゼント当選者発表

JBCニュース7月号「NHK杯第51回全日本選抜選手権大会」DVDプレゼントに多数のご応募ありがとうございました。抽選の結果、3名様が当選となりました。

▽埼玉県　松原重雄さん
▽三重県　よしずみまさのりさん
▽兵庫県　高橋颯太さん

日本スポーツマスターズ2017兵庫大会
ボウリング競技
2017.9.15(金)-18(月・祝)

主　催　公益財団法人 日本体育協会　兵庫県　公益財団法人 兵庫県体育協会
公益財団法人 全日本ボウリング協会　神戸市
主　管　一般社団法人 兵庫県ボウリング連盟

神戸六甲ボウル
〒657-0035　神戸市灘区友田町5-2-1
TEL078-841-3151

日本体育協会承認S.M.J-K-1701